

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴
施設野菜專業經營 II	人 3	トマト促成	a 40	1. 接ぎ木セル苗購入による2次育苗 2. 防虫ネット使用 3. 交配はマルハナバチ利用 4. 共同選果施設利用 5. 炭酸ガス施用 6. 統合環境制御
		経営耕地面積	水田 畑 40 a	
経営目標	1 農業総収入	32,031 千円	4 1日当たり農業所得	11,538 円
	2 農業経営費	26,851 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,197 時間
	3 農業所得	5,181 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
					千円		千円
建物・施設	ビニールハウス (ハウス本体工事、二重カーテン(自動)、換気扇、灌水チューブ、電気工事)	4	低コスト耐候性ハウス:1000㎡	1	86,370	14	3,085
	育苗用ビニールハウス (ハウス本体工事、灌水チューブ込み)	1	AP単棟ハウス:1000㎡	1	6,067	10	303
	重油タンク	2	1.9kL	1	479	7	34
	防油堤	2		1	345	25	14
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 20㎡	1	1,890	24	79
	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 60㎡	1	5,671	24	236
	計					100,821	
農機具	トラクター	1	20PS、140cm幅ロータリー装着	1	1,560	7	111
	管理機	1	6.2PS	1	278	7	20
	動力噴霧機	1	可搬式(5MPa)	1	184	7	13
	トラック	1	軽トラック	1	1,324	4	166
	加温機	4	100,000kcal	1	7,424	7	530
	循環扇	4	1セット/10a	1	910	7	65
	炭酸ガス発生装置	4		1	2,098	7	150
	自動換気装置	4	1000㎡用	1	3,943	7	282
	統合環境制御装置	4	モニタリング装置込み	1	5,886	7	420
計					23,605		1,757

3. 技術体系(トマト促成)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(2次育苗) 育苗準備	鉢上げ準備	8月	トラック	2	4	8	育苗用ハウス 育苗ポット 育苗床土 コンテナ	育苗ハウスは防虫対策をとる。
鉢上げ		8月下～ 9月上	トラック	2	5	10	接ぎ木セル苗 2,500本	
管理	かん水 ずらし	8月下～ 10月上		1	3	3		かん水は午前中に行う。 茎葉が重なり合わないようずらし を行う。
病虫害防除	薬剤散布		動力噴霧器	1	1	1	殺虫剤 殺菌剤	県病虫害防除基準に基づく適正 防除。 黄化葉巻病株は処分する。
(本ぼ) 病虫害防除	土壌消毒 ガス抜き	9月上旬	トラクター	2	3	6	土壌消毒剤 古ビニール	県病虫害防除基準に基づく適正 処理。
耕うん・整地		9月上旬	トラクター	2	2	4	堆肥 2,000kg	完熟堆肥を施用し、深耕する。
施肥	基肥施用 耕耘	9月	トラクター	2	2	4	石灰質資材 120kg 10a当たり成分 N 30kg P ₂ O ₅ 20kg K ₂ O 25kg	施肥量は土壌分析を参考にす る。 Nの分施割合 基肥 50:追肥 50
定植準備	うね立て	9月下～ 10月上	管理機	2	4	8		うね幅 1.8m
	かん水資材 設置	9月下～ 10月上		2	3	6	かん水チューブ	
	マルチ被覆	9月下～ 10月上		3	2	6	ポリマルチ	マルチは、低温期になるまで畦 の肩部まで上げておく。
定植		10月上～中		3	7	21	株間45cm(2条) 10a当り 2,400株 第1段花房の1～2花開花した 頃。	
支柱立て		10月上～中		3	8	24	支柱 エスター線 誘引ひも	横張りは、8～10段

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
かん水		10月中～5月		1	27	27		着果後から徐々に量を多くする。 草勢に応じて少量多回数のかん水を行う。
管理	誘引	10月中～5月		3	45	135	誘引ひも 誘引クリップ	2段までは直立に誘引し、その後は斜めに誘引する。
	追肥	11月～4月		1	28	28		第1回目は第3花房開花時に行う。 以降は、草勢に応じて液肥で施用。
	腋芽かぎ 摘果 摘葉	10月中～5月		3	45	135	ハサミ	腋芽は早めに除去する。
ホルモン処理 マルハナバチ交配	着果促進	10月中～4月下		2	6	12	ホルモン処理剤 マルハナバチ	マルハナバチ利用による交配。 下段花房(1～3段)はホルモン処理を行う。
病虫害防除	薬剤散布 耕種的防除	10月中～5月	動力噴霧機 トラック	2	36	72		県病虫害防除基準による適正防除。 マルハナバチへの影響を考慮する。
統合環境制御		10月～5月	加温機 循環扇 自動換気装置 炭酸ガス発生装置 統合環境制御装置	1	24	24	A重油7,200L 灯油1,500L	厳寒期の保温対策の実施 最低温度 12℃以上確保 昼間温度 25～28℃ 自動換気装置、炭酸ガスは自動制御
収穫		12月～6月	トラック	3	106	318	ハサミ コンテナ 収穫台車	
出荷		12月～6月	トラック	1	26	26	コンテナ	共同選果施設の利用
後かたづけ	ほ場環境浄化	6月	トラック	2	10	20		収穫終了後にハウスの蒸し込みを行う。
計						898		

4. 品目の作付体系(▼鉢上げ、○ハウス被覆、△定植、□収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トマト促成									○	△		

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
育苗作業(2次育苗)																									22					
定植準備																									28					
定植																									21					
支柱立て																									24					
かん水	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	27					
栽培管理作業	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	10													270					
病虫害防除	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	78					
交配																									12					
追肥	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2														28					
温度管理等	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1														24					
収穫・出荷	8	12	18	18	18	24	24	24	24	24	24	18	12												344					
後かたづけ	25	29	36	36	36	44	44	44	43	41	41	32	13	1	0	10	12	5	15	5	17	49	30	18	19	17	17	23	23	898
月計	83	108	132	129	123	46	27	53	97	63																				

6. 総労働時間

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計								
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下									
総労働時間	100	116	116	144	144	144	176	176	176	172	172	164	164	128	52	4	0	0	40	48	20	60	20	68	196	120	72	76	68	68	92	92	3592
うち家族労働	100	116	116	144	144	144	176	176	176	172	172	164	164	128	52	4	0	0	40	48	20	60	20	68	196	120	72	76	68	68	92	92	3592
うち雇用労働																																0	